

クビアカツヤカミキリの発生に警戒しましょう

ウメ、モモやサクラなどのバラ科樹木に発生し枯死させるクビアカツヤカミキリの発生地域が全国的に拡大しています。2020年12月16日現在、滋賀県では未だ発生が確認されていませんが、大阪府や奈良県など近隣府県で発生しており、本県でも今後発生する可能性があります。クビアカツヤカミキリのまん延防止には、早期の発見と対策が重要です。生態と防除法について理解し、発生に警戒しましょう！

本虫の発生を確認した場合は、病害虫防除所までご連絡ください。

クビアカツヤカミキリ（学名：*Aromia bungii*）の生態について



成虫

体に斑点はなく、胸部が赤い。

【原産地】●中国、台湾、朝鮮半島、ベトナムなど。

※特定外来生物に指定されており、運搬や飼育が法律で禁止されています。

【特徴】●成虫の体長は2.5～4 cm。全体的に光沢のある黒色で、首（胸部）が赤い。

【国内での発生】●11府県（本県では未発生。近隣府県では愛知県、三重県、大阪府、奈良県、和歌山県で発生。2020年12月16日現在）

【生態と被害】●ウメ、モモ、スモモ、サクラなどのバラ科樹木に発生します。

●成虫の発生時期は6～8月上旬で、樹上でよく見られます。

●幼虫が木の内部を摂食することで樹木を衰弱、枯死させます。

この時、ひも状につながったフラスを樹木の株元に大量に排出します。

●幼虫は樹木内で2～3年かけて成長し蛹になります。春～秋にかけて樹木内を摂食するため、フラスの排出は4～10月によくみられます。



株元のフラス



フラスは“ひも状”

幼虫が株元に大量のフラス（幼虫の糞と木くずが混ざったもの）を排出します。本虫のフラスはひも状につながっていることが特徴です。



被害木(断面)

内部に穴が開き、枯死します。

写真提供：（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所

調査と防除方法について

調査

●生産園地でフラスの排出を確認した場合、本虫の発生が疑われます。該当樹木を中心に、6～8月（成虫発生時期）に成虫の有無を調査します。

物理的防除

●成虫の捕殺：成虫は、見つけ次第捕殺します。

●幼虫の刺殺：フラスを排出口からかき出し、長い針金などを差し込んで幼虫を刺殺します。ただし、幼虫は樹木内を不規則に食べ進むため、針金が届かない場合もあります。

●ネット被覆：樹内から発生する成虫の拡散を防ぎます。成虫が発生する6月までに、目合い4 mm以下の防風ネットなどを高さ2 m程度までの樹幹に巻き付けます。ネットは樹幹に密着させず余裕を持たせて巻き付け、上下は針金やペグで固定します。

薬剤防除

農薬使用時にはラベルをよく読み、適切に使用します。

●樹上の成虫：化学農薬や天敵製剤を散布、または、微生物防除剤を樹幹地際に設置します。

●樹内の幼虫：フラスを排出口からかき出し、エアゾール剤や天敵製剤を注入します。